

会 議 録

第2回定例会

開会 令和8年4月28日

教育委員会会議録

- 1 開 会 令和8年4月28日 午前10時
- 2 閉 会 令和8年4月28日 午後0時10分
- 3 教育委員会出席者

教育長	中川 齊史
委員	島 隆寛
委員	横田 賢二
委員	糸井 恵理
委員	武田 國宏
委員	横田 恵理子
- 4 教育長及び委員以外の出席者

副教育長	高崎 美穂
教育改革統括監	真相 秀也
教育次長	遠藤 岳哉
教育政策課コンプライアンス推進室長	近藤 久善
教育DX推進課長	秋山 敏二
教育創生課長	青木 秀夫
教職員課長	金岡 由岐子
義務教育課長	宮城 佳恵
特別支援教育課長	中山 登
いじめ・不登校対策課長	福多 博史
教育政策課長	玉岡 あき子
教育政策課副課長	藤川 憲一郎

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。
各委員 異議なし。
教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 議案第6号、議案第7号、協議事項1及び報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。
各委員 異議なし。
教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《議案第2号 徳島県教育委員会職員服務規則の一部を改正する規則について》

教育長 説明を求める。
教育政策課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし。

教育長 議案第2号を原案通り決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第2号を原案通り決定する旨を告げる。

《議案第3号 職員の旅費に関する条例第2条第2項の規定による教育職員の職務の級を定める訓令の一部を改正する訓令について》

教育長 説明を求める。
教職員課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし。

教育長 議案第3号を原案通り決定してよいかを諮る。
各委員 異議なし。
教育長 議案第3号を原案通り決定する旨を告げる。

《報告事項2 令和8年度生成AIパイロット校事業について》

教育長 報告を求める。
教育DX推進課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

横田(恵)委員：DXハイスクール事業との関連性や、指定された小中学校において具体的にどのように事業が進められるのか御教示いただきたい。

教育DX推進課長：本事業は、「DXハイスクール」とは別事業で、令和5年度から実施している「リーディングDXスクール」から分離されたAI利用に関する事業である。具体的には2点あるが、1点目は9月に文部科学省が作成する試作教材を用いた実践で、小学校では総合的な学習の時間に係る情報分野の拡充、中学校では技術・家庭科を分割して技術分野の情報領域の単位数を増やす取組である。2点目は、全ての教科で情報活用能力の育成に向けた研究を進める取組である。

横田(賢)委員：交付される予算の執行権限は各学校の校長にあるのか。また、事業実施後の検証はどのように行うのか伺いたい。

教育DX推進課長：予算の執行権限については、各指定校の校長にある。実施後の検証は、各学校が成果報告を行い、外部の有識者から助言を得て、文部科学省へ提出する。

島委員：AIの技術進化は非常に早い。民間の意見を定期的に取り入れたり、外部アドバイザーを活用したりする仕組みは用意されているか。

教育DX推進課長：文部科学省公認の「教育DX戦略アドバイザー」を招聘し、専門的な助言をいただくための予算が含まれている。使用する教材に守秘義務があるため、この事業では教育DX戦略アドバイザーに御協力をいただくのが適切であると考えている。

《報告事項3 令和8年度徳島県公立高等学校入学学力検査集計結果について》

教育長 報告を求める。
教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

横田(賢)委員：11ページ2結果の概要(一般選抜)について、(1)～(3)の結果は、予想と比べてどうか。

教育創生課長：第3学区への通学区域外からの流入率を引き上げているため、(1)の学区外から第3学区へ合格した生徒数については、ある程度人数は増える、(2)の徳島市内の公立中学校から徳島市外の普通科に合格した生徒数については、(1)の状況を踏まえてもそれほど市外へは出ていない、(3)の合格最低点の差は、人数枠が引き上げられることによって縮小する傾向になっており、想定の範囲内といえる。

武田委員：選抜結果を受けて示された授業改善の視点について、例えば日常生活に関連した数学の問題などを通して、興味・関心を高めるといった内容が記載されている。しかし、現状の中学生に対しては、そのような授業がなかなか実施されていないのではないかと考えられる。このような授業改善を進めるため、総合教育センター及び県教委で連携して行っている方策を教えてください。また、英語の一般選抜の得点分布を見ると、現在の受検生は小学校から英語を学習してきた世代であるにもかかわらず、得点が下層に偏っている点が非常に懸念される。中学校に進学すると英語への興味・関心が明らかに低下しているという意見も耳にする。そこで、小学校卒業時点における児童の英語に対する興味・関心について、把握している情報があれば教えてください。

平田総合教育センター学校経営支援課長：数学の授業改善については、6月の学力向上推進員研修、10月の授業づくり研修等において、本県独自のテストであるステップアップテストの結果等を用いながら、日常生活と関連付けた題材を用いた授業の展開、子供自身が主体的に考えて問題を解決するような授業づくりについて研修を行い、授業改善に取り組んでいる。英語に対する小学校卒業段階での興味・関心については、小学校に教科として導入されたことで、苦手意識をもつこともあるかもしれない。県教委では、小・中・高校のそれぞれで授業レベルアップ研修を実

施しており、日常生活の様々な場面を想定して、その中で英語を使うといったコミュニケーションのための英語という趣旨を徹底し、研修を進めることで、興味・関心を高めるように努めている。また、先生方に子供が主体的に問題解決をする授業を実践していただけるように、全国的に著名な講師を招くなどの取組も行っている。学力検査結果の分布で、得点が下層に偏ったのは、複数の情報を勘案して、自分の力で記述する問題を若干増やしたことが結果として表れたと認識している。引き続き、研修や学校訪問を通して、学力向上に努めていきたいと考える。

武田委員：英語教育においては、指導のあり方やテスト内容、及び小中学校の教科書間（中学校での文法中心への移行）のギャップをいかに克服するかが課題である。また、将来の理数系・グローバル人材を育成するためには、テストの点数以上に、数学や英語に対する興味・関心を高め、実際に使うリアルな体験を増やすことが重要である。したがって、中学校においては、実生活と数学の結びつきを体感できる授業や、膨大な暗記に頼るのではなくALT等を活用して実際に英語を使う授業をしっかりと導入し、生徒の関心を高めていくことが求められる。

横田(恵)委員：各教科の成績結果の概要において、国語や社会の記述問題、理科などで「無解答」が目立つ点が懸念される。自ら言葉を探して文章を紡ぐ問題や、必要な情報を読み取って理解する問題は生徒にとって負担が大きく、無解答は途中で諦めてしまったという学習意欲の欠如が表れたものと考えられる。また、多様な意見を書けている生徒がいる一方で無解答の生徒もいることから、生徒の二極化に繋がっている可能性も推察される。難しい問題に対しても途中で諦めず、何とか解答しようとする姿勢を育てることは、高校入試直前の対策で急に身につくものではない。そのため、小・中学校の段階からしっかりと意欲を育成していく必要があり、それは将来社会に出てからの「生きる力」にも十分に繋がっていくものである。生徒がこうした問題に対応できる力をいかに身につけていくかについて、今後しっかりと検討していくべきである。

糸井委員：5教科の総得点の平均点や得点分布を示してもらえると、より分かりやすく、また、進路選択の参考になるのではないかと。

教育創生課長：5教科の平均点で示しているので、総得点に置き換えられると思う。

《報告事項4 第5回徳島県公立高等学校の在り方検討会議の概要について》

教育長 報告を求める。

教育創生課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

島委員：2040年に生徒数が約4割減少すると予想される中、高校を集約しリソースを集中させ、教育内容を充実させるグランドデザインを描くのか、その都度再編するなどの個別対応とするのか、方向性を示すことが重要である。目標となる学校数などの全体像が示されれば、地域の危機感が高まり、魅力ある高校づくりの動きにつながる可能性があるため、グランドデザインの作成に関する考えを聞きたい。

教育創生課長：在り方検討会議の最終報告を踏まえ、県教育委員会として一定の方向性を示したいと考えている。国からも2040年を見据えた実行計画の策定が求められており、その計画との整合性を保った形で方向性を示していきたい。

武田委員：「市町村が強い危機感を持つ」とあるが、現在の高校の在り方検討について、市町村とコミュニケーションを取っているのか。それともこれから取っていくのか。

教育創生課長：昨年度の県内8地域のタウンミーティングにおける意見交換に加え、11月から12月にかけて全市町村に出向き、検討状況の説明と意見聴取を行った。本年1月には首長を対象としたオンライン意見交換会も実施しており、今後も丁寧にコミュニケーションを取っていきたい。

武田委員：ニュースによれば、海陽町長が当選時のコメントで「特色ある教育を通じた人口流入や街づくり」に言及しており、海部高校の魅力化に対する高い意識がうかがえた。こうした意識を持つトップが更に増えることを期待して質問させていただいた。

《議案第4号 令和9年度使用教科用図書に係る徳島県教育委員会の基本方針について》

教育長

説明を求める。

義務教育課長・特別支援教育課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

島委員：毎年、教科書の採択結果が最終的に県教委に上がってくるが、委員会の中で、11採択地区の教科書を1つ1つ点検し、採択教科書と採択されなかった教科書とを、比較・検討することは非常に難しい。AI等を利用して、もう少し教科書同士の違いが端的に分かるようにまとめることができないか。また、過年度採択済みの教科書と新たに採択された教科書について、例えば歴史の見方について従来の定説が覆り記述の仕方が変わったとか、英語の指導内容に子供の興味関心がもてるような新たな内容が入ったとか、何かしら過年度採択済み教科書との相違点が明確になるような様式でまとめたものを提出することはできないか。

義務教育課長：御指摘を受けて、様式の検討を行ってまいりたい。

横田(賢)委員：採択に当たって、各選定審議会委員及び専門調査員については、採択候補教科書の見本をお配りしており、教科書見本並びに採択過程の状況等について情報の流出には気を配っていただいていると思うが、今後、デジタル教科書がその俎上に上がってきた場合、どのようにその管理を行っていくのか。

義務教育課長：各選定審議会委員並びに専門調査員の方々には、紙の教科書同様、情報の流出には細心の注意を払っていただくとともに、デジタルファイルについても、限られたところできちんと管理していただくよう誓約書を御提出いただく。また、審議、調査後は、その資料については確実に御返却いただくようにする。何より、各選定審議会委員並びに専門調査員の高潔さを信頼しているところである。

横田(恵)委員：教科書の見本展示会について、さまざまな場面で周知していると思うが、毎年、どのくらいの方が見に来られているのか。

義務教育課長：大勢の方が来館されるということはない。採択教科書について興味関心がおありの熱心な方が見に来られることが多い。各採択地区の教科書センターの開館日時等の都合上、平日の昼間に御来館いただくことになるので、御時間の都合の悪い方が多い。そういう方は、中央教科書センターである総合教育センターに御来館いただいている。

横田(賢)委員：毎年、採択教科書に目を通してはいるが、年に1度しか見ない者にとっては、その教科書がどのような特色をもっているのか。

るかというのにはわかりにくく、専門の教育関係者の委員に頼っていることが多い。学校の教員ならすぐにわかるということもあるだろうが、採択に関わる分析結果について、問題点や意見等が明確に分かるようにしていただきたい。

義務教育課長：採択教科書に係る分析結果のまとめについては、今いただいた御意見を確実に踏まえつつ様式等を検討していきたい。

武田委員：特別支援学校並びに特別支援学級について、毎年、採択を行っているということだが、実際、採択を行っている地区はあるのか。

特別支援教育課長：特別支援学校並びに特別支援学級に在籍する児童生徒については、障がいの程度が重度の児童生徒もいるので、絵本を教科書として選んでいる。その場合、例えば、今年度と翌年度では違う絵本を選ばれるので、毎年、採択が必要になるということである。

教育長 議案第4号を原案通り決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第4号を原案通り決定する旨を告げる。

《議案第5号 徳島県教科用図書選定審議会への諮問事項について》

教育長 説明を求める。

義務教育課長・特別支援教育課長 内容等を説明する。

〈質 疑〉

特になし。

教育長 議案第5号を原案通り決定してよいかを諮る。

各委員 異議なし。

教育長 議案第5号を原案通り決定する旨を告げる。

[非公開]

《議案第6号 徳島県教科用図書選定審議委員の任命について》

《議案第7号 徳島県学びの多様化学校に関することについて》

《協議事項1 職員の処分について》

《報告事項1 公益通報の受付・処理状況について（令和8年1月～3月分）及び令和7年10月～12月分の補正》

[閉 会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉 会 午後0時10分